



子どもの育ちを支える日本子ども・子育てネット

ニュースレター■VOL: 21 (2024・1・1)



ここネット通信

日本子ども・子育てネットは
日本の子どもが遊びながら豊かに育つことのできる社会の実現と
日本の文化と命をつないでいく子育てを支えていく活動をしている団体です。

令和6年 新年のご挨拶

ここネット会長・理事 柳溪暁秀

新年明けましておめでとうございます。

日頃より、日本子ども・子育て支援センター連絡協議会（ここネット）の活動に対しまして、ご理解とご協力を戴き深く感謝いたします。

さて、昨年は「第12回 子ども・子育て支援全国大会 in 山形」

テーマ 「新たな学びと繋がりを東北の子育てに」

～くらし・遊びを大切にする子育て～

日付 令和5年(2023年)11月25日(土)・26日(日)

会場 東北文教大学

を開催し、全国から156名の参集と56個人・団体のオンライン参加を戴き、深く感謝いたします。又、交流会には104名の参加があり、ご来賓として加藤鮎子：内閣府特命担当大臣（こども政策少子化対策）のご臨席を戴き、国政報告や花笠踊りにも参加して戴き子育て支援の大切さと本会（ここネット）の組織活動を知って戴く貴重な機会にもなりました。今年度はプレ大会として熊本県で開催いたしますので多くの方々のご参加をお願いいたします。

【『ここネット』の道標（みちしるべ）】の『家でも園でもセンターでも、3歳までに質の高い子育て（保育）を！』を旗頭に、「和を以て貴しとなす」を大切に、
「子どものための子育て支援」と「保護者のための子育て支援」の両方の事業を進め
ますので、ご理解とご協力を戴きますよう宜しくお願い申し上げます。

末筆となりますが、会員の皆様方の益々のご活躍とご健勝を願って、新年のご挨拶と
させていただきます。

合掌

新年あけましておめでとうございます。

今年はオリンピックイヤー、4年に1度の「うるう年」です。2月のカレンダーには確かに「29日」が載っていて、1日得した感があります。

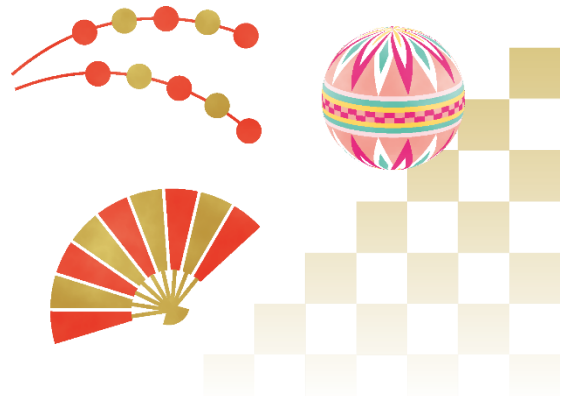
今年もどんな感動の「一日」があるのか楽しみです。

さて、私の園では毎年「赤ちゃんふれあい体験授業」を行っています。園に遊びに来る親子や地域の子育てサークルの親子にお声がけをし、地元の中学校に出向きます。中学2年生全員、6クラス約200人が対象です。出向く親子は1日20組から30組の赤ちゃんとその保護者。3日間、思春期真っ只中の中学生と赤ちゃんがふれあう体験は、お互いの中に何か生まれる気がします。赤ちゃんは瞬間瞬間の「今」を全力で生きています。そして中学生は子どもから大人への階段を上がろうとしている瞬間、「いのち」と「命」の融合はまさにこの授業の醍醐味です。

赤ちゃんとふれあった中学生の感想です。『赤ちゃんとの遊びはとても楽しく、僕たちが遊ばれました。赤ちゃんも楽しんでいただけ、僕たちはその倍以上楽しかったです。子どもと遊ぶときは僕たちも楽しまないで赤ちゃんも楽しめないことがわかりました。』『お母さんの赤ちゃんを見る目が優しくてなんか感動しちゃいました。大変なことあるけど、「可愛いわが子のためなら何でもできる」の意味がわかりました。』など、多感な中学生の素直な声です。

最初は泣いたり、ジーンと中学生を見ていた赤ちゃんですが、お兄ちゃん、お姉ちゃんの優しい言葉がけや関わりでニコニコ笑顔で大満足の「一日」に、そしてお母さんにとっても十数年後のわが子の姿や思いを目の前の中学生と重ね合わせて感じられる充実した「一日」となります。

子育て支援センターの新たな取り組みの1つとしての「赤ちゃんふれあい体験授業」が学校や地域の皆さんと一緒に若い世代へ紡いでいくことが日本各地で広がっていくことを切に願いつつ、今年も感動の「一日」を創っていきたいと思います。



あけましておめでとうございます。

年の瀬にこれを書いておりますが、今回は、ここネットとして令和5年によかったことを3つあげてみたいと思います。

まず、1つ目は11月25日（土）・26日（日）に第12回 子ども・子育て支援全国大会in山形が開催の地元山形をはじめとした実行委員会の方々、そして全国役員のみなさま、ここネット会員のみなさま、一般参加者の皆様のおかげをもちまして無事開催できたことであります。

ここでは下村一彦実行委員長・ここネット幹事のご尽力を特筆したいと存じます。

数々のお骨折りにこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

次によかったことの2つ目はコロナ禍でZOOM会議が定着して、昨年の第1回理事会から第3回理事会までのすべてをZOOM会議で検討、議論できたことでございます。

ここでは、柳溪暁秀会長・理事、ZOOM幹事を引き受けていただいております中川浩一副会長・理事のご尽力に感謝申し上げたいと存じます。

今後とも理事会の中心にZOOM会議を置きたいと存じます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

最後にここネットにとってよかったことの3つ目ではありますが、令和6年度の全国大会について、熊本ここネットがプレ大会として引き受けていただける運びとなったことであります。これには、小岱紫明副会長・理事、村上千幸前事務局長・理事のご尽力があり、熊本の方々のあたたかいご支援のたまものと感謝しております。

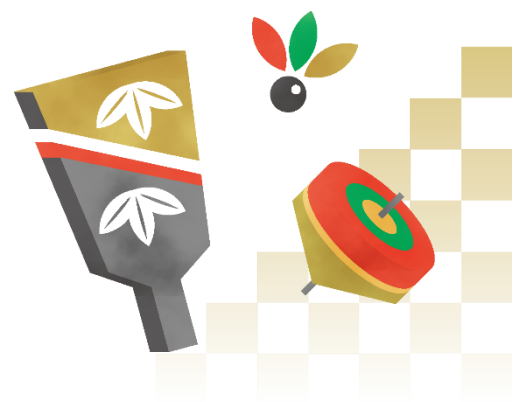
新年を迎えまして、今年も数多い課題に対してひとつ、ひとつ、じっくりと取り組んでまいりたいと存じます。

ひとつにはここネット研修会の独自開催でございます。

ふたつにはここネット調査研究の準備と実行でございます。

みっつには熊本プレ大会の堅調な開催ございまして、これは、そのまま令和7年度の全国大会in熊本へつながるものと確信しております。

みなさま今後とも、共にここネット活動にご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。



新年あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひいたします

昨年11月4日・5日開催された「第12回 子ども・子育て支援全国大会in山形」では、柳溪会長、実行委員長の下村先生、実行委員の先生方、また多くの学生の皆様方大変お世話になりました。

「雪景色」の写真を園児のおみやげにしようと思って参加しましたが、残念ながら暖冬のせいでしょうか雪を見ることはできませんでした。

ホテルと、会場である東北文教大学の往復は、柳溪会長のマイクロバスのおかげで大変助かりました。柳溪会長は運転席ではグリーンのジャンパー。会場ではスーツ姿に変身。「富山ナンバー」のバスが山形市内を自由自在に迷うことなく目的地へ。

「〇〇児童クラブ」と書いてあるバスからは、「昭和の児童が」降りて大学構内に吸いこまれ、教室の固定席で学生時代を思い出しながら講演A・B・C、また分科会を受講いたしました。どの内容も素晴らしく、涙を流した講演、メルヘンの世界でひと時を過ごした講演、各分科会講師や参加者から元気をもらい、保育に、子育て支援に向かって歩いていく勇気をたくさんいただいた有意義な研修会でした。

往路は伊丹空港で2時間20分待って山形へ。復路はわずか20分で宮崎行へ乗り換え。山形空港で預けた大きな荷物は果たして宮崎へ着くのか？ さすが日本！何事もなくベルトコンベヤーに乗って出てきました。

ボランティアの学生さん何人かに「九州の宮崎で就職しませんか？」と求人活動を試みましたが、皆さま「いや、地元で働きます。」と断られました。会場で販売され職員のおみやげに購入した「ラ・フランス」のように甘くはいきませんでした。

行政説明にあったように、次年度から様々な保育や子育て支援施策がスタートします。その中でも「こども誰でも通園制度（仮称）」が保育関係機関誌や新聞等によく見かけます。一時預かり事業との違いなど明記されていますが、マンパワー不足の現在、果たして一人ひとりの子どもを、親子を受け入れて質の良い保育や子育て支援環境が提供できるのか不安ですが、これから提示される具体的な内容に期待したいところです。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします

